Ⅰ　職員の自己評価の分析と改善のための方策

（１）確かな学力の向上

ア　児童の基礎的・基本的学力の定着については、原則毎週水曜日の放課後に取り組んできた「学力充実タイム」での単元別評価問題の活用や朝自習時間の確保によって学力向上につながってきている。本年度のベネッセ総合学力調査においても、前年度の学力到達スコアが国語科で３．６ポイント、算数科で２２．６ポイント上回る結果となった。

イ　教師の授業力向上についても、校内研修を中心とした、毎時間の「めあて」「まとめ」の板書を基本とした板書の構造化や継続的なノート指導、児童の多様な考えを引き出す発問の工夫等への取組によって教師の意識にも変容が見られてきている。

ウ　努力目標・具体的実践事項では、研修の取組によって学習規律の徹底や板書の工夫、ゆうチャレンジの活用、読書の推進等に意識の向上が見られる。また、家庭への協力についても、基礎的・基本的学力の定着のために低学年のうちから家庭学習の定着を働きかけている。

エ　低学年児童のみの在籍であるため、児童の学力を客観的に測るテストや調査が少ないため、思考力や表現力を見取っていくための工夫が必要である。日常の授業においても絶対評価のための指標をしっかりと意識しながら授業を行っていく必要がある。

（２）豊かな心の育成

ア　いずれの項目においても自己評価は変化が見られなかった。継続的に指導を行っている「あいさつの励行」「時と場に応じた言葉遣い」についても児童の発達段階に応じて指導を行っていく必要を全職員が感じている。

イ　自己評価項目の中でも低い数値にとどまっているものが「体験活動を活かした道徳の授業」「自己肯定感を高めるプラス志向の指導」であった。道徳の授業については教科化を見据えて、しっかりとした指導計画と評価計画を検討しておく必要がある。児童の自己肯定感を高めていくことは生徒指導のみならず全ての教育活動を通じて行っていく必要がある。

ウ　特別支援教育の推進については、本校には特別支援学級がないため、久米小学校や球磨支援学校との交流学習を計画していく必要がある。

（３）健やかな体の育成

ア　１６項目中　９項目で自己評価に伸びが見られた。特に「家庭と連携した基本的生活習慣の育成」は全ての項目で伸びが見られた。今年度は家庭との連携がスムーズに進められてきていると実感がある。

イ　今年度から取組を始めた「元気もりもりタイム」については、年間３０回の実施ができた。内容も競技スポーツだけでなく基本的な体力づくりのための運動など多岐にわたって行うことができた。少しずつではあるが、持久走大会での記録やサーキットトレーニングの動きの状態等から児童の体力も向上が見られる。

ウ　正しい食事のマナーや歯磨きの習慣化については、学校でも取組を進めると共に家庭へも協力を求めていく必要がある。

（４）教師の姿

ア　校内研修の取組によって「指導力の向上」は意識が向上してきている。今後も継続した取組が必要である。

イ　「教養・礼節」に関する項目は若干ではあるが上向いてきている。しかし、教育公務員としての自覚がしっかりと身に付いているというまでには至っていないと感じられる。「くまもとの教職員像」を指標として研究と修養に努めていく。

ウ　各職員の健康づくりの推進については、自己評価が低くとどまっているため、定時退勤を推進するために校務のスリム化と見通しを持った校務処理を進めていきたい。

Ⅱ　学校関係者評価

1　学校関係者評価委員

黒木　倉男　　様（学校評議員：槻木地区老人会会長）
落合　龍見　　様（学校評議員：休校前ＰＴＡ会長）
黒木　チトセ　様（学校評議員：久米１２区民生委員・児童委員）
黒木　峰幸　　様（体育協会槻木支部長）
上治　英人　　様（ＰＴＡ会長）

2　学校関係者評価（総括評価）

（1）質疑・応答

Ｑ：久米小学校との交流の回数などに制限はあるのか？
Ａ：法令等による制限はないが、交流先の学校とも交流の目的や内容等をしっかりと検討して、お互いに効果のある交流学習を狙っていきたい。また、児童の体力面への配慮も必要である。
Ｑ：保護者の交流はあっているのか？
Ａ：久米小学校のＰＴＡ行事（授業参観・どんどや等）にも参加をさせていただいている。また、久米小学校の学年行事や懇親会にも参加をしている。

（2）成果として認められること

○　教育環境がすばらしい。花壇やプランターの花もきれいに整備され学校が明るくなっている。
○　児童に力がついてきていると感じる。１人での発表でもしっかりと発表することができている。
○　先生方も細かいところまできちんと指導されている。自己評価は先生方が低くなっているが「満足する。」ということはないと思う。
○　以前に比べて、児童と保護者、学校職員の自己評価がお互いに近くなってきている。学校の情報提供によって、保護者の教育活動への理解が進んできていると思う。
○　保護者の学校の取組に対する評価も前回に比べてよくなっている。学校の教育活動に対する保護者の満足度が表れている。
○　学校便りや学期末に出された２学期の取組はとてもよかった。自分たちが一緒に活動しているところも写真で紹介されていて、地域の中でも学校のことが話題になっている。
○　今年度取り組まれた「干し柿づくり」や「花いっぱい運動」等はとてもいい取組だった。季節の行事を子どもに体験させることは、地域ならではの取組でもあり、これからも進めていってほしい。

（3）今後の教育活動で取り組んでいってほしいこと

○　友達は児童の成長にとって必要なものである。交流の回数を増やしてもいいのではないか。また、槻木小に来てもらって槻木地区ならではの活動を体験することで、友達を広げていくこともできる。
○　学校の再開以来、まだ学校に来られていない方がいらっしゃる。そういう方に学校へ足を運んでもらうために、まずは学校の方からそのような方の所に足を運んで顔見知りになってもいいのではないか。
　・ＰＴＡでの地域を巡回しての廃品回収
　・遠足や野外体験
○　久米小学校との交流を進めていくためにも、槻木小学校でも「プルトップ集め」を行ってもいいのではないか。集めたプルトップを久米小学校に寄贈すれば久米小学校も助かるし、地域に呼びかければ地域の人も学校に足を運ぶきっかけにもできる。
○　日課の中に「集会」の時間を設定するとのことだが、その時間は校長先生の話等だけでなく、地域の方にいろいろな話をしてもらうことも設定できるのではないか。地域の人が一緒に話を聞くこともいいと思う。
○　弁当デーの時に地域の人も弁当持参で交流をする機会を設けてもいいのではないか。

Ⅲ　次年度への方向性（案）

1　確かな学力の向上

「かしこく工夫する子ども」

（1）　へき地・小規模校の特性を踏まえ、児童の実態把握に努め、基礎的基本的な学力を定着させた上で、思考力・表現力を伸ばしていくための指導の充実を図る。

（2）　校内研修を中心としながら、日々の授業の中でも質の高い熊本型授業を展開していくための教師の授業力向上に努めていく。

（3）　年間を通じて普段の授業や学力充実タイムにおいて熊本県学力調査問題や全国学力・学習状況調査問題、単元別評価問題等を活用し、習熟した知識や技能を活用する力の向上を図っていく。

（4）　家庭との連携、協力しながら家庭学習の習慣化と質の向上を図っていく。

（5）　地域の方々の協力を得ながら、「読み聞かせ」の発展と地域教育力を活用した教育活動の充実を図る。

2　豊かな心の育成

「明るく助け合う子ども」

（1）　以下の点については、学校だけでの取組にとどまらず、家庭や地域と連携・協力しながら取組の充実を図る。

ア　人間関係づくりの基本となる、はっきりと丁寧なあいさつや返事の指導

イ　国語の授業等を核とした、時と場に応じた正しく丁寧な言葉遣いの指導

ウ　ボランティア活動や地域の行事等への積極的な参加

（2）　日課の工夫による定期的な集会活動を設定し、人権教育や健康教育に関する指導の充実を図る。

（3）　体験活動と関連づけた指導等による道徳の時間のさらなる充実を図る。

（職員研修を充実させるとともに、地域への公開により授業改善につなげていく。）

（4）　あらゆる教育活動の場で「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標の実践を進め、児童の自己肯定感の伸長と道徳的実践力の向上を図る。

3　健やかな体の育成

「たくましく根気強い子ども」

（1）　体力の向上を目指した教科体育や業間体育（せせらぎタイムを含む）、元気もりもりタイムの充実を図る。

（2）　給食指導と弁当デーの取組を中心に、望ましい食生活とマナーの定着を図る。

（3）　アレルギーへの対応を適切かつ正確に行うことのできる体制づくりを久米小学校とも連携しながら進める。

（4）　健康診断後の事後指導を充実させ、う歯の治療等を進めさせるよう家庭とも連携をとりながら健康増進の意識の高揚を図る。

（5）　掃除や花壇等の除草など勤労奉仕体験を意欲的に行えるような工夫をする。